

この 18 ヘクタールの保護林には、約 3,000 本のスギの木がある。スギは平均樹齢は 250 年で、中には高さ 50 メートルを超えるものもある。

スギは成長が速く、日本では昔から重要な材木源となってきた。20 世紀半ば、数十億本のスギが植えられた。それは、第二次世界大戦後の再建とそれに続く数十年にわたる急速な経済成長のために木材資源を提供するためであった。したがって、スギの国有林の多くは比較的最近の植林地である。しかしながら仁鮎水沢保護林は、天然のスギ林の代表的な例であり、1922 年に保護林に指定されている。

この林には秋田県一高いスギ、きみまち杉がある。この樹齢 250 年の巨木の大きさは、高さ 58 メートル、円周 5 メートルを超え、この木一本で 182 平方メートルの家を一軒建てられるという。そしてその価値は数千万円とも評価される。

また、周囲にある無数の樹木は、仁鮎水沢スギ保護林にある一本の木が原木となっている。1962 年、高さ 56 メートルの恋文杉が地域の伐採産業より優れた親木として選ばれた。まっすぐな幹と虫に強い恋文杉の増殖を期待した林業者たちにより、この木の種子が採集され、商業伐採のため他の地域に植えられたのである。

800 メートルの周回コースが仁鮎水沢スギ保護林を通り抜け、この壮大な木々の間を通り抜ける。木道は雨が降ると滑りやすく、一部の板が壊れているため注意が必要である。森に棲むクマとの遭遇を避けるため、クマよけの鈴を携帯すると良いだろう。